

2024年5月

2024年3月期

(2023年4月1日～2024年3月31日)

決算説明資料

ディーバイエックス株式会社



1 会社概要	(1) 会社概要 P 4 (2) 会社沿革 5 (3) 事業系統図 6 (4) 事業の特徴 7 (5) 企業理念 8
2 当期のハイライト	(1) 当期方針と取り組みの成果 10
3 当期の決算概況	(1) 要約損益計算書 20 (2) 売上高 21 (3) 売上総利益 26 (4) 営業利益 28 (5) 当期純利益 30 (6) 要約貸借対照表 31 (7) 要約キャッシュ・フロー計算書 32 (8) 配当 33 (9) 資本コストと株価を意識した経営 34
4 2025年3月期の見通し	(1) 2025年3月期の方針と取り組み 35 (2) 業績予想（売上高） 36 (3) 業績予想（営業利益、当期純利益） 37 (4) 配当予想 38
5 中期展望	(1) 中長期ビジョン概要 41 (2) 中期経営計画のローリング 42

1 会社概要

会社概要



注：2024年3月31日時点の状況です。

設立 1986年4月1日
資本金 344,457千円
従業員数 316名（営業部門245名）

取扱商品数 7,933
販売先施設 1,105

事業所数 営業所 23
出張所 4
物流センター 1

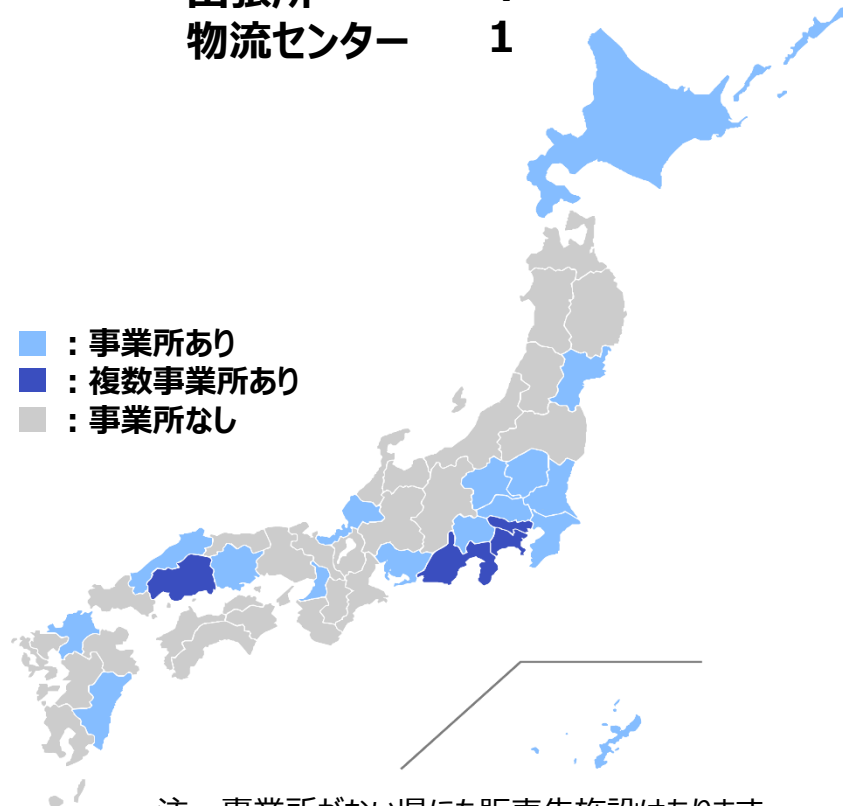
- ソリューション・プロバイダー
- 地域密着営業
- スペシャリスト集団
- 挑戦型企业

病気で苦しむ人々の
Quality of Lifeの向上

人に優しい医療への貢献

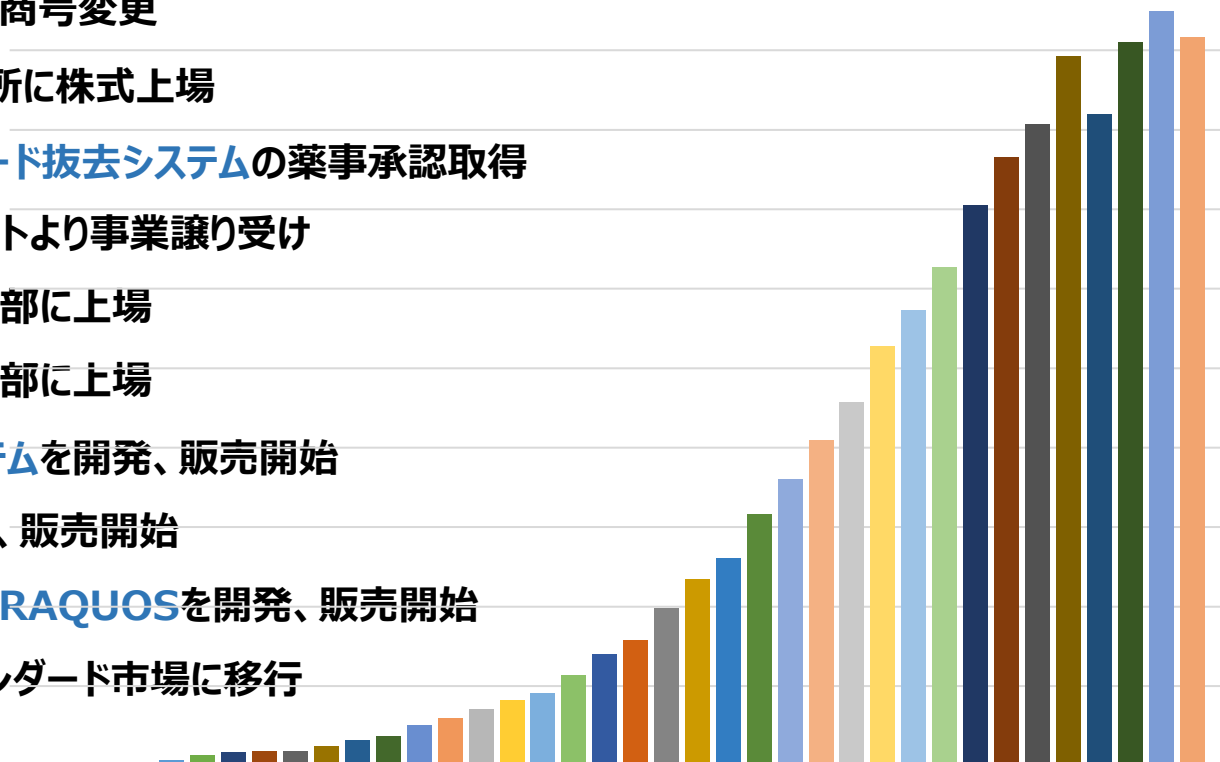


企業発展

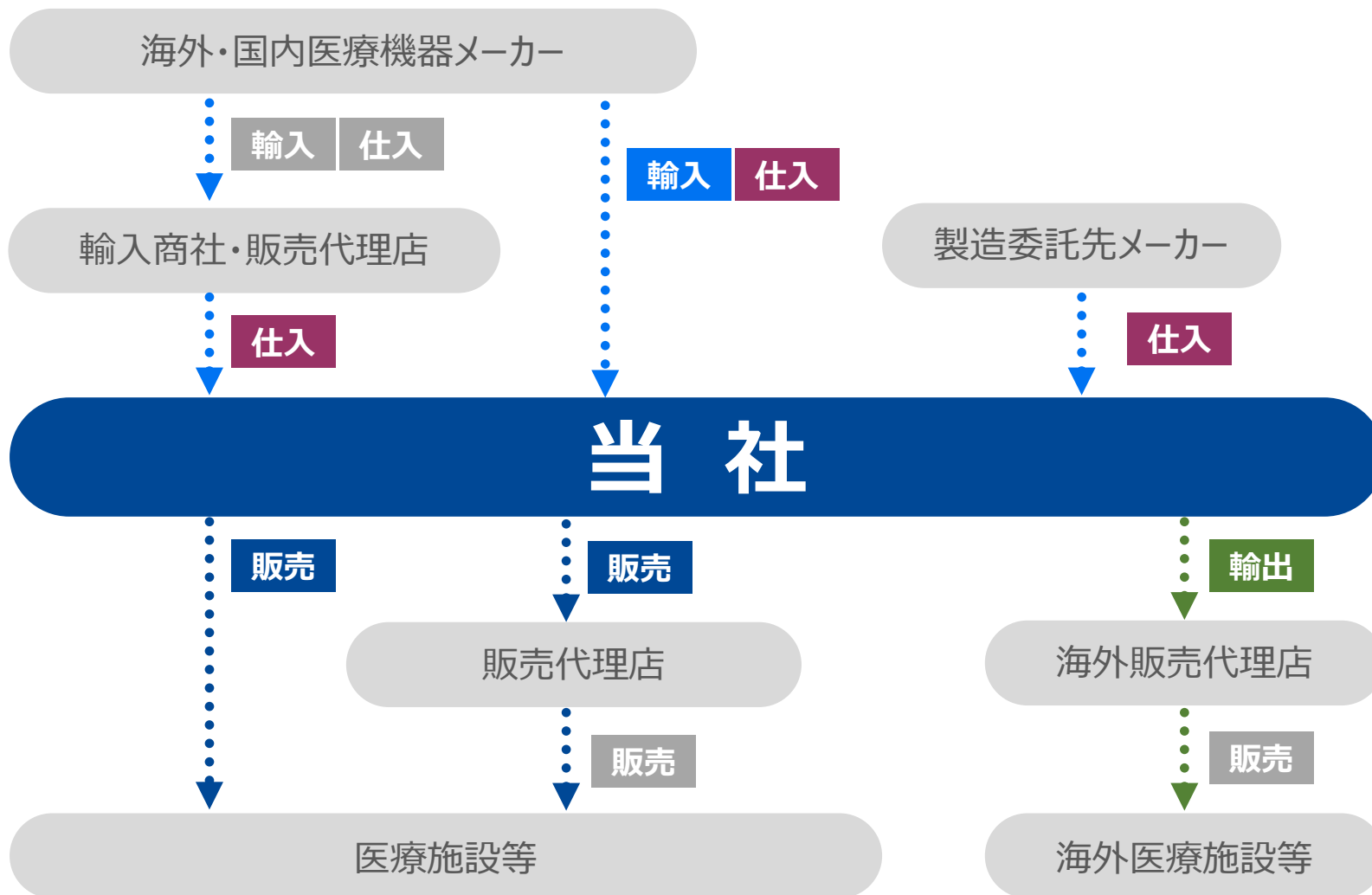


注：事業所がない県にも販売先施設はあります。

- 2024.3期売上高
458億円



事業系統図



注：輸出の実績は僅少です

専門性

循環器分野に強い
スペシャリスト集団
高い問題解決能力
医療現場からの信頼

※CDR認定者 130名

首都圏

首都圏で
不整脈分野No.1のシェア
首都圏売上高比率63.0%

※2024年3月期実績

コア事業における競争力の保持



新たな
市場

新たな
事業

新たな
地域

利益率
生産性
向上

組織
強化

強靱な事業ポートフォリオ形成

Purpose

パーパス（私たちの存在理由）

生命と健康を守る。



Mission

ミッション（私たちがなすべきこと）



患者・医師・医療関係者にとって有益な製品・サービスを提供し、最適な医療の普及に貢献する。

Vision

ビジョン（その先にある未来像）



医療の現場や社会から求められるリーダーを目指す。
人種・性別・世代を問わず、多様な個性で変化を捉え、新たな事業を開拓する。

Values

バリューズ（私たちが共有する価値観）



- 私たちは、人に優しい医療の実現に貢献する。
- 私たちは、ニーズを捉え、最適なサービスを考える。
- 私たちは、相互に理解し合い、相互に助け合う。
- 私たちは、自己の目標を定め、常に能力の向上を目指す。
- 私たちは、適正な利益を確保した公正な取引を行う。
- 私たちは、人の『心』をもって正直に行動する。

2 当期のハイライト

方針

① 利益率・生産性の向上

- 高利益率商品の売上高構成比のUP
- インセンティブ・一括買取の推進
- DX推進による事務フローの自動化と省力化
- 基幹システム改善による物流と販売管理機能の強化

高利益率商品：自社企画商品の売上拡大（前年同期比 8.2%増）

粗利率（全社）は前期11.5%に対し、当期は10.4% 1.1ポイント低下となりました。

不整脈 前期11.3% →当期10.1%

虚血 前期12.6% →当期13.4%

その他 前期12.3% →当期11.4%

DX：販売管理システムの改善実施、更新の準備

DX：システム課新設（2023.10）

方針

② 地域依存度の低減

- 施設拡大、品目拡大
- 主要大学、主要病院の新規獲得
- 事業単位で配賦後営業利益黒字化

施設：横浜第二営業所開設（2023.10）

施設：新規施設125、売上倍増施設27

※売上倍増施設：売上高が前期に対して200%以上かつ10百万円以上

品目：新規商品（虚血分野、総販売元）販売開始

品目：新規商品（不整脈検査関連機器）販売開始

方針

3

強靱な事業ポートフォリオの構築

- 輸入商社機能の強化
- オンリーワン商品、自社企画品の販売拡大
- ニーズ志向の製品探索と導入
- M&A、投資の推進
- RAQUOS事業推進

RAQUOS事業 ※P18ご参照

- ・国内トップシェアを目指す自社企画商品
- ・部材調達難、製品在庫不足の問題は期中に解消、正常化
- ・本体販売（設置）とともに消耗品売上も増加

高利益率商品：自社企画商品の売上拡大（前年同期比 8.2%増）

医療機器ベンチャー企業への追加投資（2023.10）

方針

4

新たな成長基盤の強化（市場）

- 国内シェアNo1に向けたRAQUOS事業の推進
- 海外市場の開拓（アジア向けから）
- R-SUD事業、リサイクル事業の確立
- 営業部門と技術部門の連携による新製品発掘

R-SUD事業 ※P15参照

- ・2018/12回収事業開始 2020/6販売事業開始
- ・回収先施設数 当期末182（前期末136）
- ・販売先施設数 当期末 37（前期末 28）
- ・将来の市場拡大、医療費削減、資源有効利用、環境保護

カテーテルリサイクル事業（使用した医療機器から有価物を抽出してリサイクルする）

- ・回収先施設数 当期末64（前期末47）

海外輸出準備室新設（2023.10）

方針

5

成長基盤の強化（組織）

- E:DX推進によるペーパーレス化、ガソリン消費量の削減、環境保全に配慮した事業活動
- S:ダイバーシティ推進、ワークスタイル変革、働き甲斐のある職場環境の整備
- G:コーポレートガバナンス強化、コンプライアンス推進、内部統制の適切な運用、透明性の高い情報開示

女性活躍・働き方改革

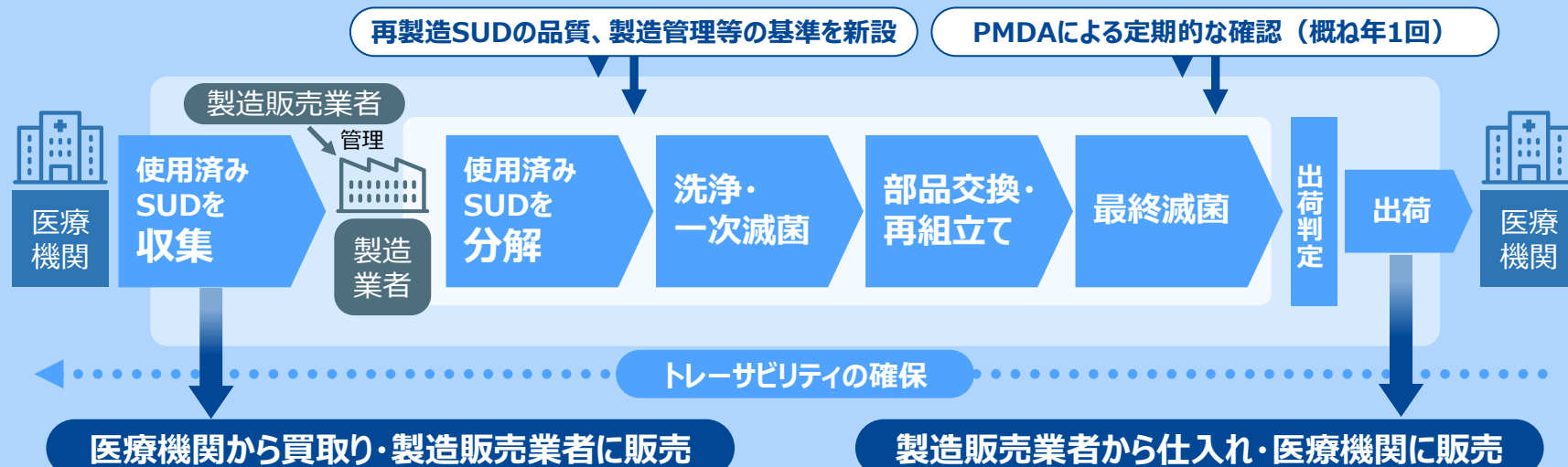
- ・「働き方の見直しプロジェクト」設置（2023.8）
- ・女性活躍促進法に基づき女性従業員の働きやすさ向上のための活動
- ・最終的には男性従業員を含めた全従業員の働きやすさ向上のための活動

人的資源の活用

- ・「人的資源プロジェクト」設置（2023.8）
- ・人的資本経営及びESG経営社会（Social）分野における施策の促進
- ・人的資源の活用および社員が働き続けたいと思える職場環境の整備

経営戦略室の新設（2024.4）

再製造SUDに関する新たな仕組み



出典：「単回使用医療機器の再製造について（概要）」（厚生労働省）

(<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11124500-Iyakushokuhinkyoku-Iryoukikishinsakanrishitsu/0000173090.pdf>) を加工して作成

2018/12 回収事業開始
2020/06 販売事業開始

2024/3末

回収先施設数 182（前期末136）
販売先施設数 37（前期末 28）

NEW

カテーテルリサイクル事業

使用した医療機器を回収して、それに含まれるレアメタル・プラチナ・イリジウム合金などの有価物を抽出して、リサイクルする

買取契約先施設数 64

規模拡大中

将来の市場拡大を見込む

医療費削減、資源有効利用、環境保護



CDR

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器（ICD）等についての専門的な医療機器情報や医療技術情報を提供する者を指す。

CDR 認定制度

植込み型医療機器の適正かつ安全な使用のために、専門的な技術と知識を有し、かつ医療関連企業あるいは医療機関の従事者として高い倫理観を備えた専門家の育成を目指す制度。

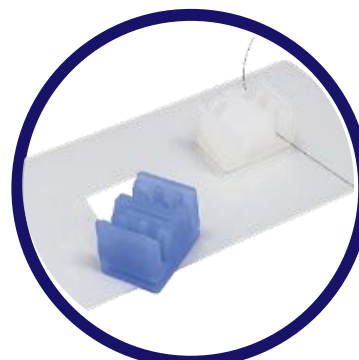
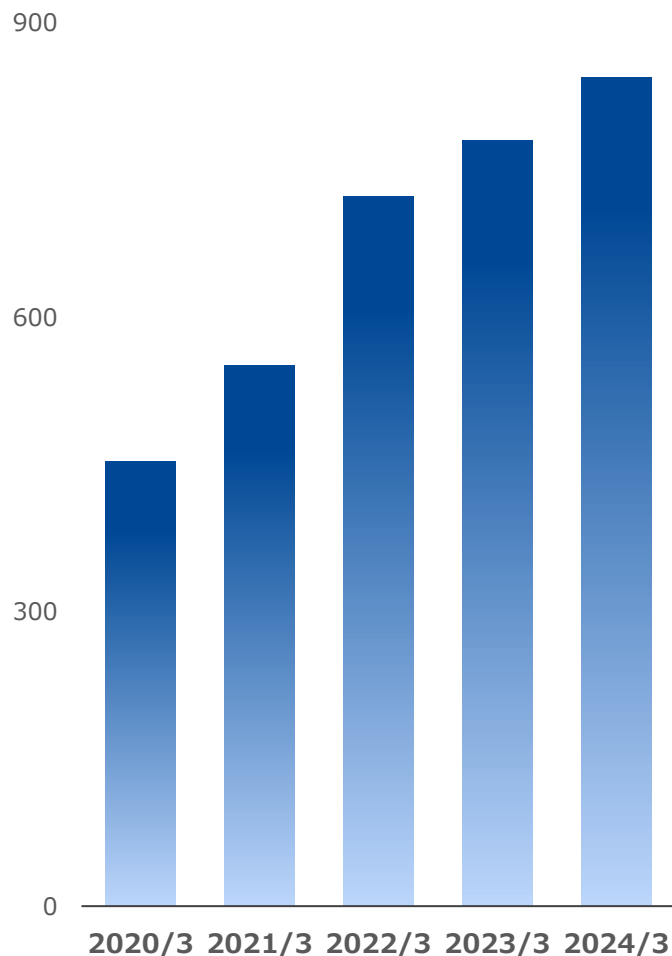
当期合格者 6名

在籍認定者 130名

施設拡大・売上獲得の競争力

自社企画商品売上高
※RAQUOSを除く

(単位：百万円)



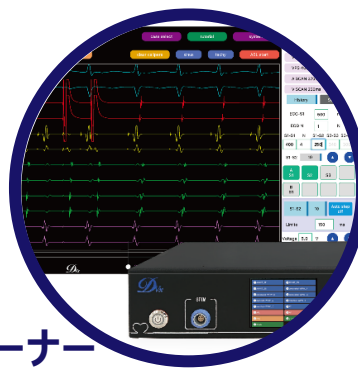
ディークリッパー



ガリバー



放射線防護カート
ディフェンダー



EPSトレーナー



映像関連製品

RAQUOSインジェクションシステム

RAQUOSディスポーザブルキット

2020/10 薬事認証取得

2021/07 薬事認証取得

2021/8 販売開始



造影剤自動注入装置
自社企画商品（製造は委託）

国内トップシェアを狙う自社企画商品

本体を販売（設置）後に消耗品を継続的に
販売するビジネスモデル

上期に影響があった部材調達難、製品在庫不足
の問題は期中に解消、正常化

海外展開の準備開始：海外輸出準備室新設
（2023.10）

3 当期の決算概況

要約損益計算書



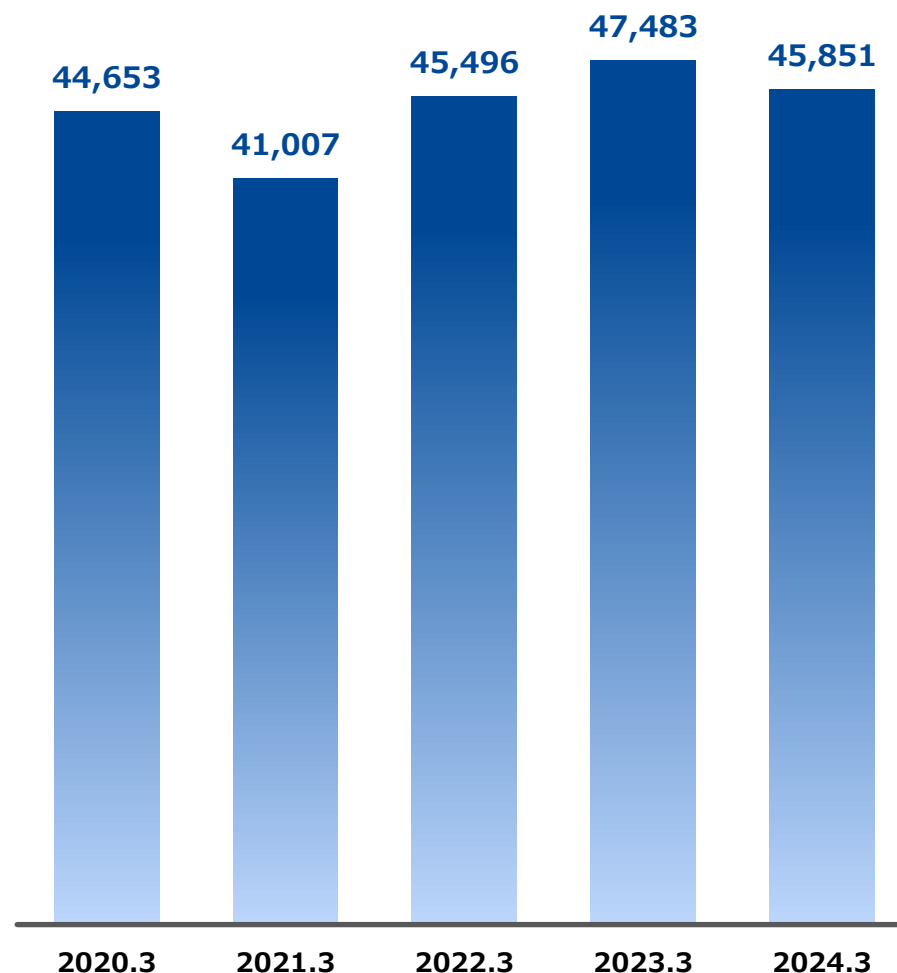
	実績 (百万円)	対売上高 (%)	前期実績 (百万円)	増減率 (%)
売上高	45,851	100.0	47,483	▲3.4
売上総利益	4,764	10.4	5,456	▲12.7
販管費	4,111	9.0	4,115	▲0.1
営業利益	653	1.4	1,340	▲51.3
経常利益	662	1.4	1,352	▲51.0
当期純利益	172	0.4	936	▲81.5

売上高 **458.5**億円

前期比 **3.4%減** 

	金額 (百万円)	増減率 (%)
不整脈	39,305	▲3.8
虚血	2,456	▲19.7
その他	4,089	+14.7
合計	45,851	▲3.4

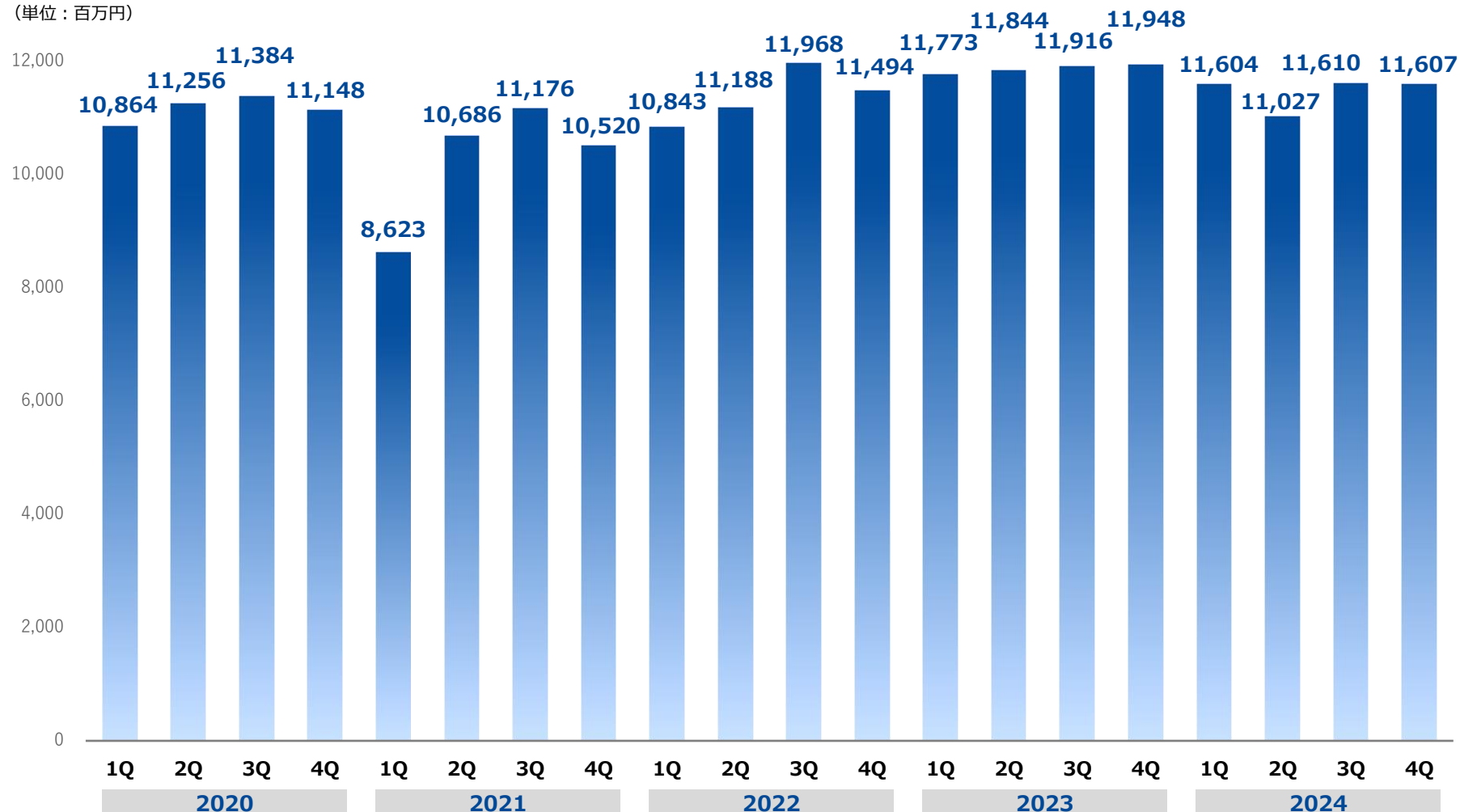
(単位：百万円)



四半期毎売上高の推移



(単位：百万円)



売上高 393.0億円

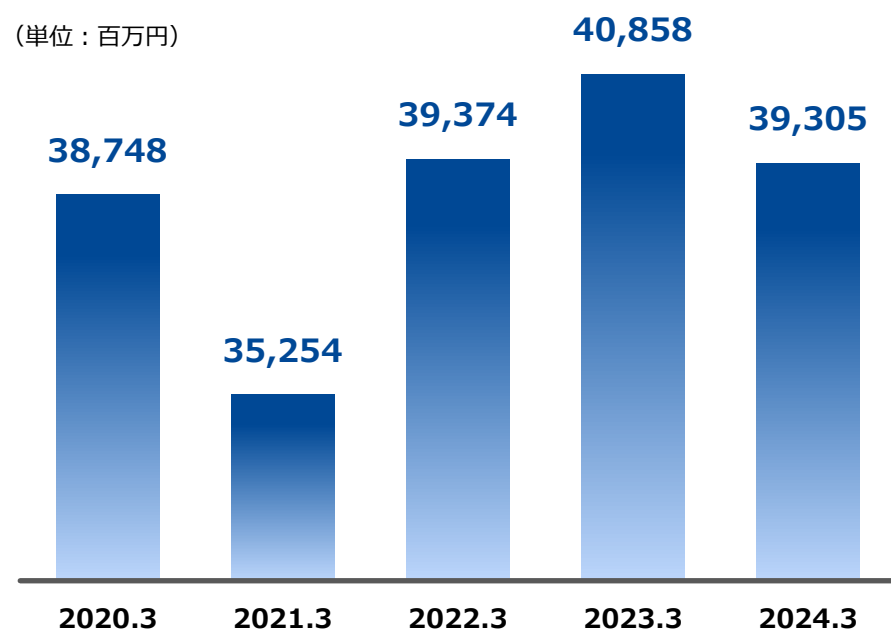
前期比

3.8%減



■ 一部の主要な取引先施設の商流変更

(単位：百万円)



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
ペースメーカー	3,844	3,844	▲0.0
ICD 植込型除細動器	2,464	2,434	+1.3
CRT-D 機能付植込型除細動器	1,743	1,965	▲11.3
電気生理検査用カテーテル	11,230	11,713	▲4.1
心腔内超音波プローブ	4,143	4,167	▲0.6
ABL用機能付カテーテル	5,842	6,453	▲9.5
ABL用カテーテル	284	380	▲25.2
冷凍ABL用カテーテル	2,661	2,445	+8.8
その他	7,091	7,453	▲4.9
合計	39,305	40,858	▲3.8

売上高 24.5億円

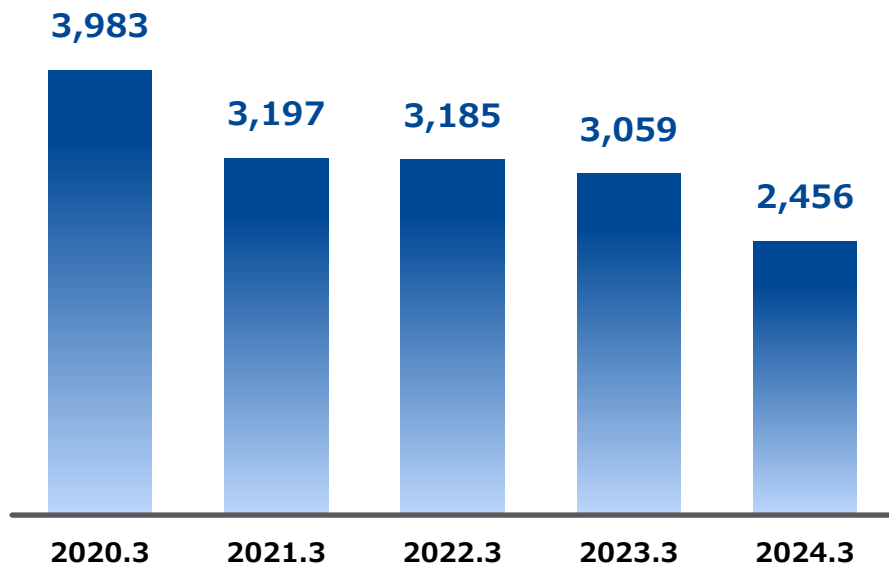
前期比

19.7%減



■ レーザー事業の総販売元としての取り扱い終了

(単位：百万円)



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
SPNC	276	1,016	▲72.7
その他	2,179	2,043	+6.6
合計	2,456	3,059	▲19.7

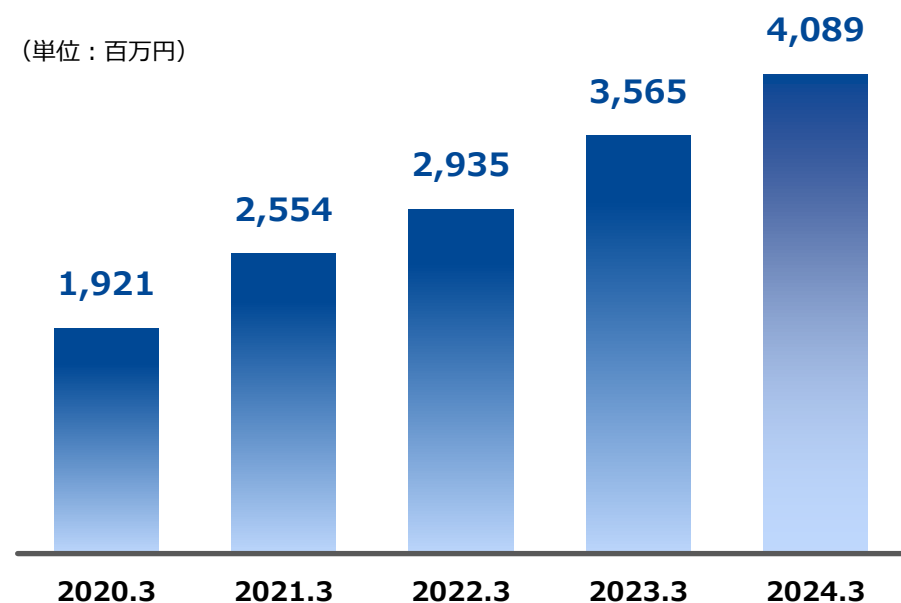
売上高 40.8億円

前期比

14.7%増 

- TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）関連が好調
- 頭部・腹部領域も拡大
- 過去最高額を更新

（単位：百万円）



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
ストラクチャー	1,706	1,401	+21.7
頭部腹部領域	1,396	1,305	+7.0
心臓血管外科	188	150	+25.2
外科	219	173	+26.2
その他	578	534	+8.2
合計	4,089	3,565	+14.7

売上総利益 47.6億円

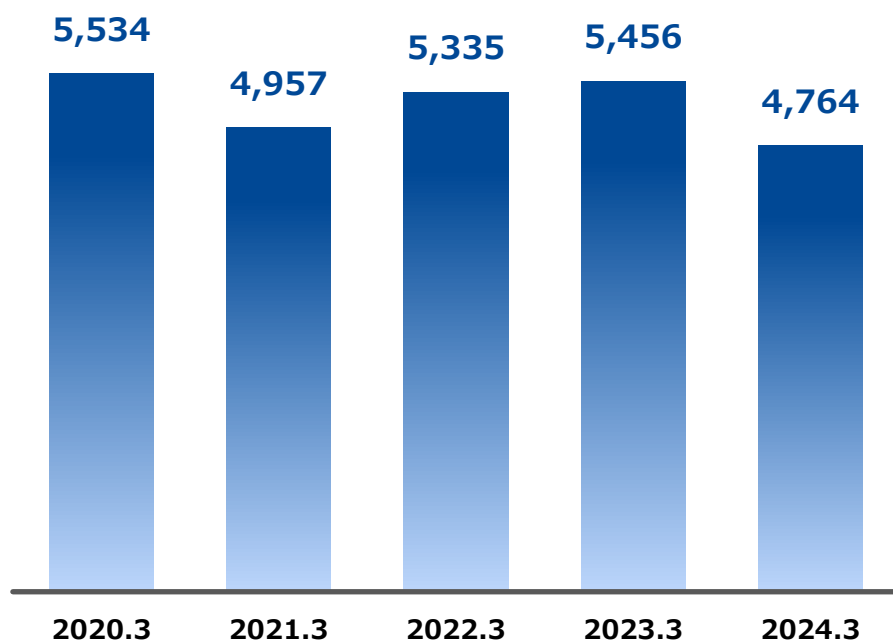
前期比

12.7%減



■ 粗利率10.4%（前期11.5%）

（単位：百万円）



	金額 (百万円)	増減率 (%)
不整脈	3,968	▲14.4
虚血	329	▲14.6
その他	466	+6.8
合計	4,764	▲12.7

売上総利益（事業別）



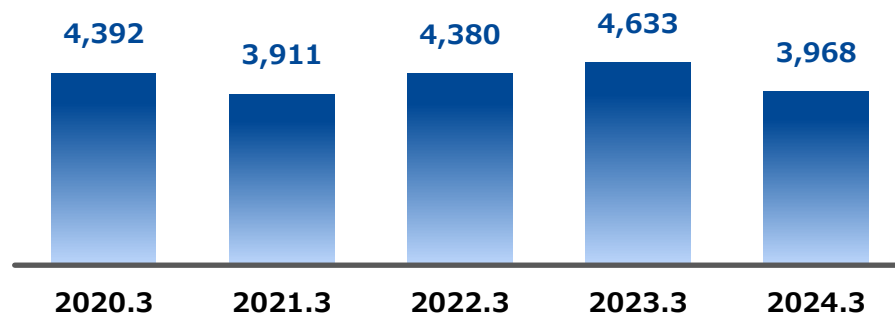
（単位：百万円）

不整脈事業

セグメント利益 **39.6億円**

前期比 **14.4%減** 

- 売上高減少
- 粗利率低下（粗利率10.1%、前期11.3%）
- 仕入単価の上昇による粗利率の低下

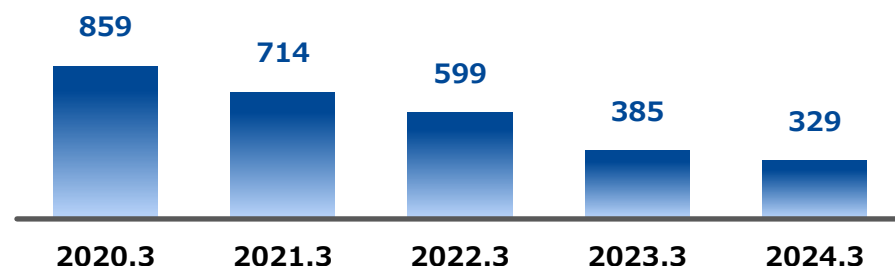


虚血事業

セグメント利益 **3.2億円**

前期比 **14.6%減** 

- 売上高減少
- 粗利率上昇（粗利率13.4%、前期12.6%）
- レーザー事業取引条件の変更による売上高減少

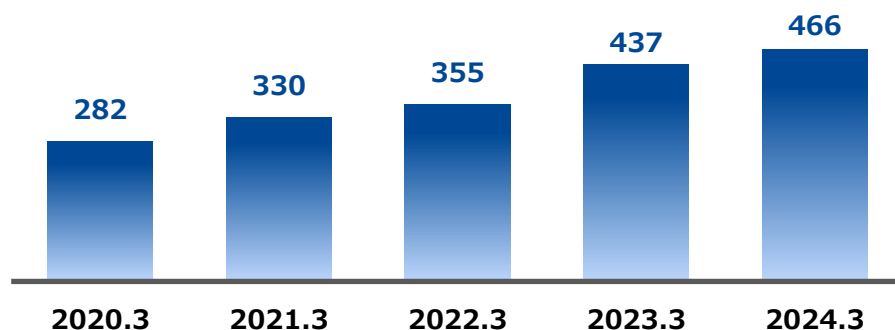


その他

セグメント利益 **4.6億円**

前期比 **6.8%増** 

- 売上高増加
- 粗利率低下（粗利率11.4%、前期12.3%）



営業利益 6.5億円

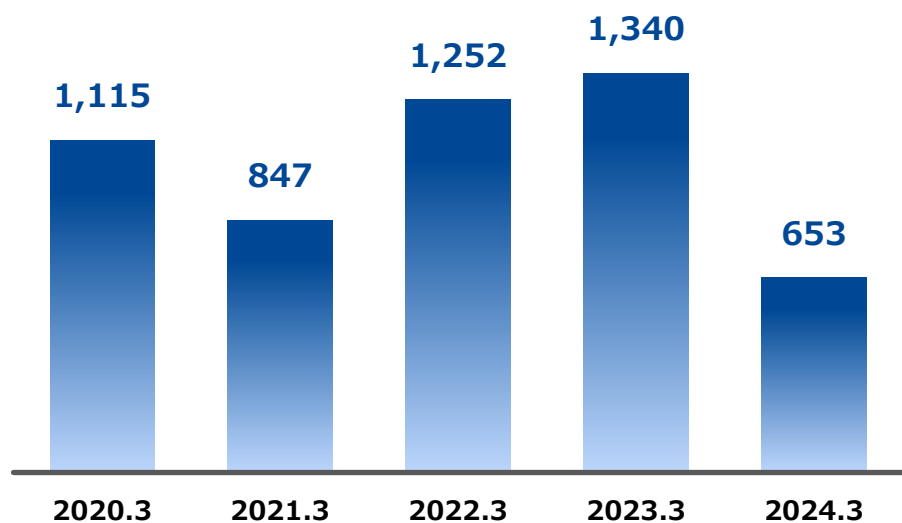
前期比

51.3 %減

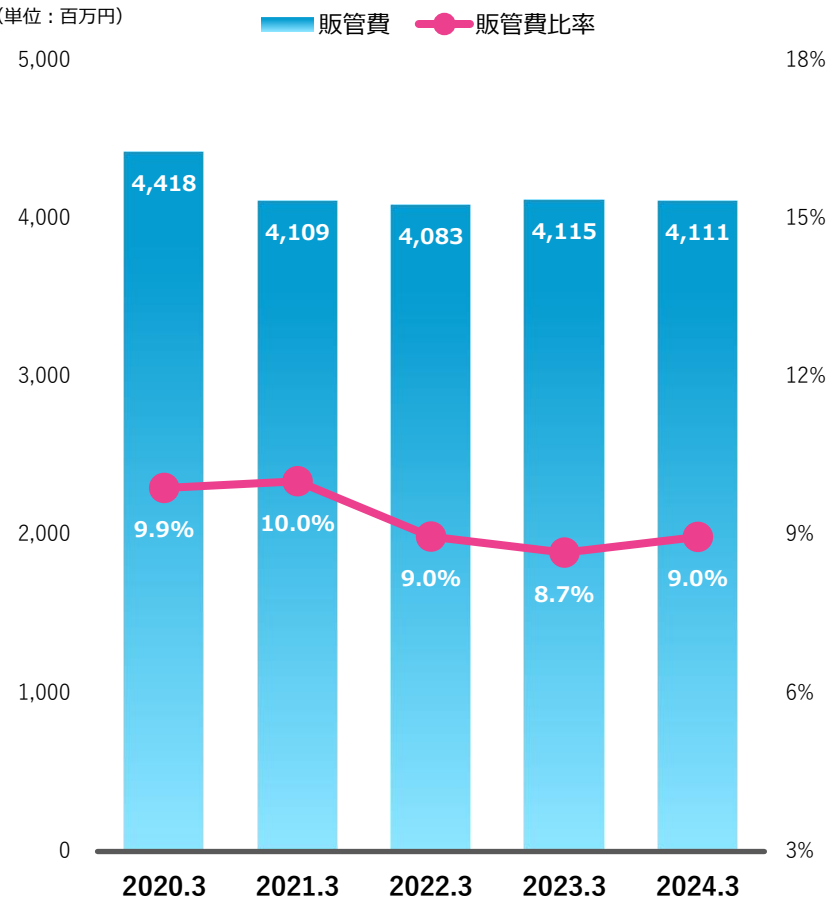


- 売上総利益 前期比12.7%減
- 販売管理費 前期比0.1%減
- 売上高営業利益率1.4%（前期2.8%）
- 売上高販管費比率9.0%（前期8.7%）

（単位：百万円）



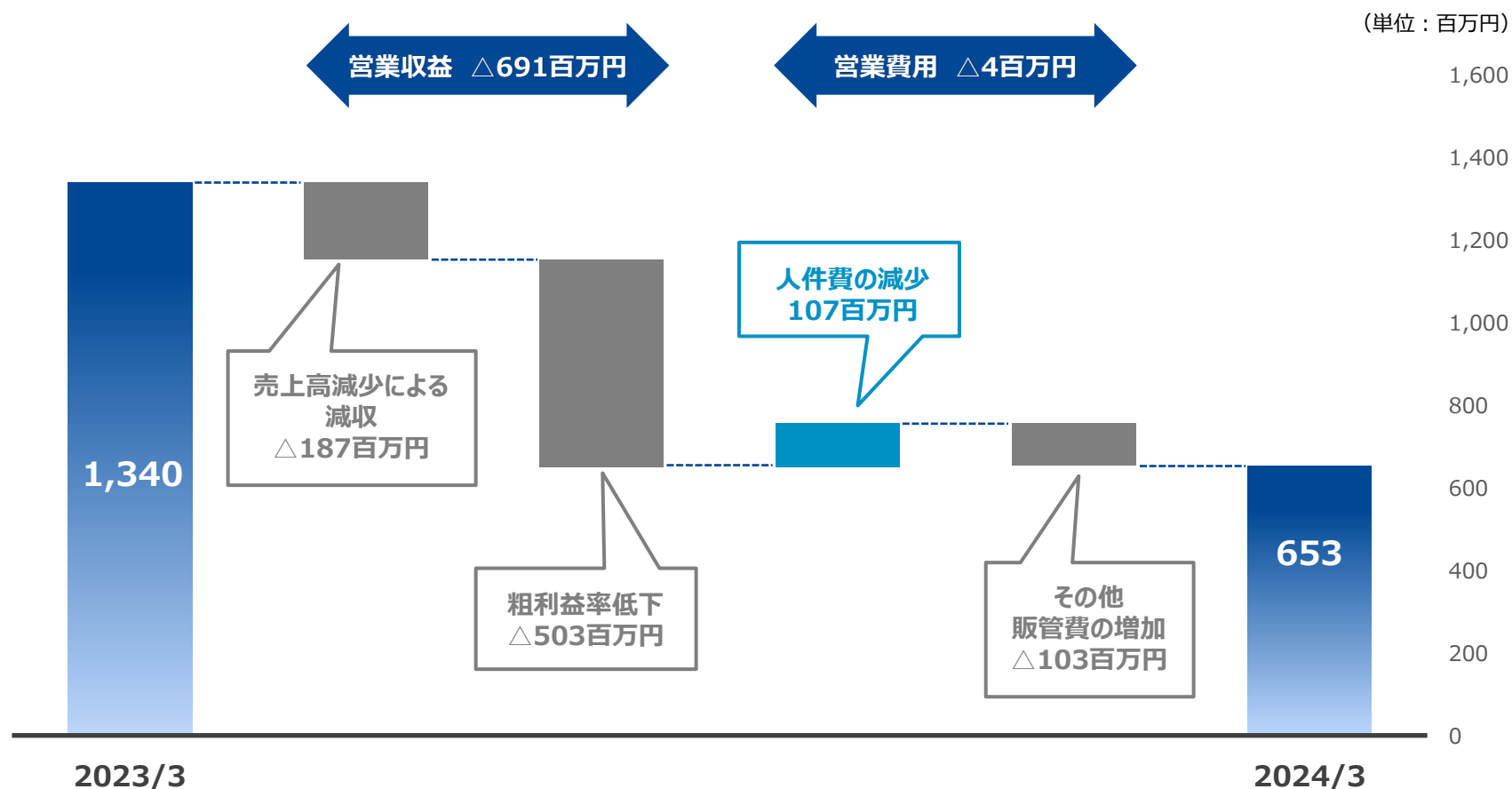
（単位：百万円）



営業利益増減分析



売上高の減少で187百万円減少、粗利率の低下で503百万円減少、人件費の減少で107百万円増加、その他販管費の増加で103百万円の減少 計前期比687百万円減少



当期純利益 1.7億円

前期比

81.5 %減



■ 2.9億円の特別損失の計上

当期第3四半期において当社が保有する市場価格のない株式である投資有価証券について減損処理を行い、投資有価証券評価損294百万円を特別損失として計上いたしました。(2024.1開示)

■ 自己資本当期純利益率**1.9%**（前期**10.5%**）

■ 自己資本当期純利益率の推移

2019/3 13.1%

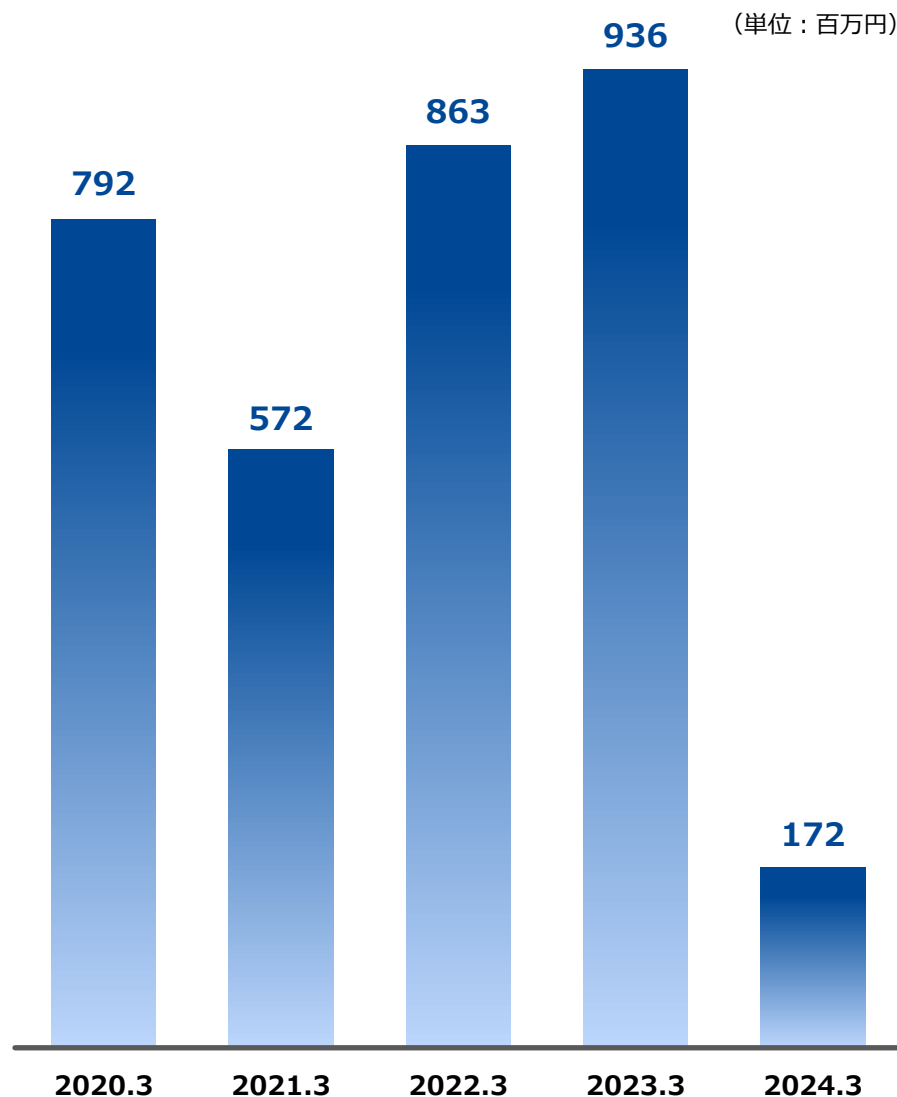
2020/3 10.5%

2021/3 7.4%

2022/3 10.5%

2023/3 10.5%

2024/3 1.9%



要約貸借対照表



	実績 (百万円)	構成比 (%)	前期末実績 (百万円)	増減率 (%)	主な増減要因
流動資産	21,156	93.3	21,965	▲3.7	現預金の減少 ▲1,124百万円 受取手形の増加 162百万円
固定資産	1,522	6.7	1,624	▲6.3	投資有価証券の減少 ▲234百万円
資産合計	22,678	100.0	23,589	▲3.9	
流動負債	12,958	57.1	13,770	▲5.9	買掛金の減少 ▲712百万円 未払法人税等の減少 ▲254百万円
固定負債	521	2.3	507	+2.9	
負債合計	13,480	59.4	14,278	▲5.6	
純資産	9,198	40.6	9,311	▲1.2	繰越利益剰余金の減少 ▲147百万円
負債純資産合計	22,678	100.0	23,589	▲3.9	

要約キャッシュ・フロー計算書



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	当期の主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲422	1,484	税前当期純利益（375百万円） 減価償却費（432百万円） 売上債権の増加（▲204百万円） 棚卸資産の増加（▲293百万円） 仕入債務の減少（▲612百万円） 投資有価証券評価損（294百万円） 法人税等の支払額（▲450百万円）
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲396	▲477	有形固定資産の取得（▲290百万円）
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲312	▲244	配当金の支払（▲312百万円）
現金及び現金同等物の増減額	▲1,124	767	
現金及び現金同等物の期首残高	8,614	7,846	
現金及び現金同等物の期末残高	7,489	8,614	

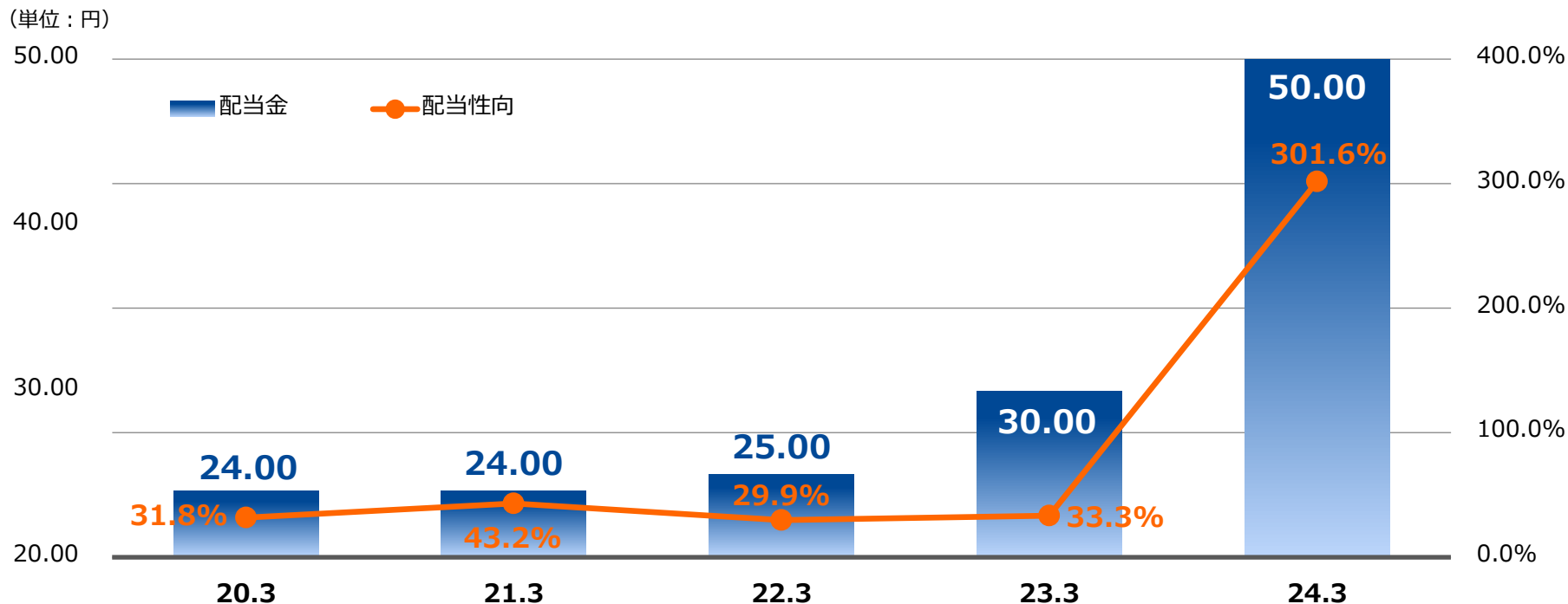
配当方針

株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題として、企業価値および株式価値の向上を図ることで株主還元を継続的かつ安定的に強化する。配当については、DOE（株主資本配当率）5.0%以上を目途に配当額を決定する。（2023.9）

20円増配

当期9月に変更した配当方針をふまえ、2024年3月期期末配当を前期実績から20円増配し、1株当たり50.0円といたします。

期末配当 50.0円（配当性向 301.6%）



1.現状分析 ROE

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
当期純利益（千円）	974,181	792,028	572,367	863,016	936,184	172,913
ROE（%）	13.1	10.5	7.4	10.5	10.5	1.9

2.現状分析 PBR

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
最高株価	1,500	978	1,195	1,249	1,097	1,114
最低株価	927	669	725	936	836	810
PBR（最高株価）	2.29	1.42	1.62	1.62	1.32	1.25
PBR（最低株価）	1.42	0.97	0.98	1.22	1.01	0.90

4 2025年3月期の見通し

2025年3月期の方針と取り組み



利益率、生産性向上

～医療への持続的な貢献

「効率的成長」に向け、インプット・アウトプット両面から生産性向上を図る。

地域的依存度低減

～コア事業での競争力の保持

全国展開とシェア拡大を推進し、拠点ごとに資本コストを意識したマネジメント力の強化を図る。

強靱な事業ポートフォリオ

～リスクの分散とニーズの追求

主力製品の取引喪失による粗利率の低下や取扱い商品の減少による機会ロスを解消する。

新たな成長基盤の強化（市場）

～世界中の生命と健康を守る

海外事業開拓と隣接事業開拓に向け取り組む。

成長基盤の強化（組織）

～技術・環境の変化を機会にする

全社的・継続的な取り組み状況を開示し、開示項目の充実を図る。

（単位：百万円）

売上高 486.1億円

前期比

6.0 %増

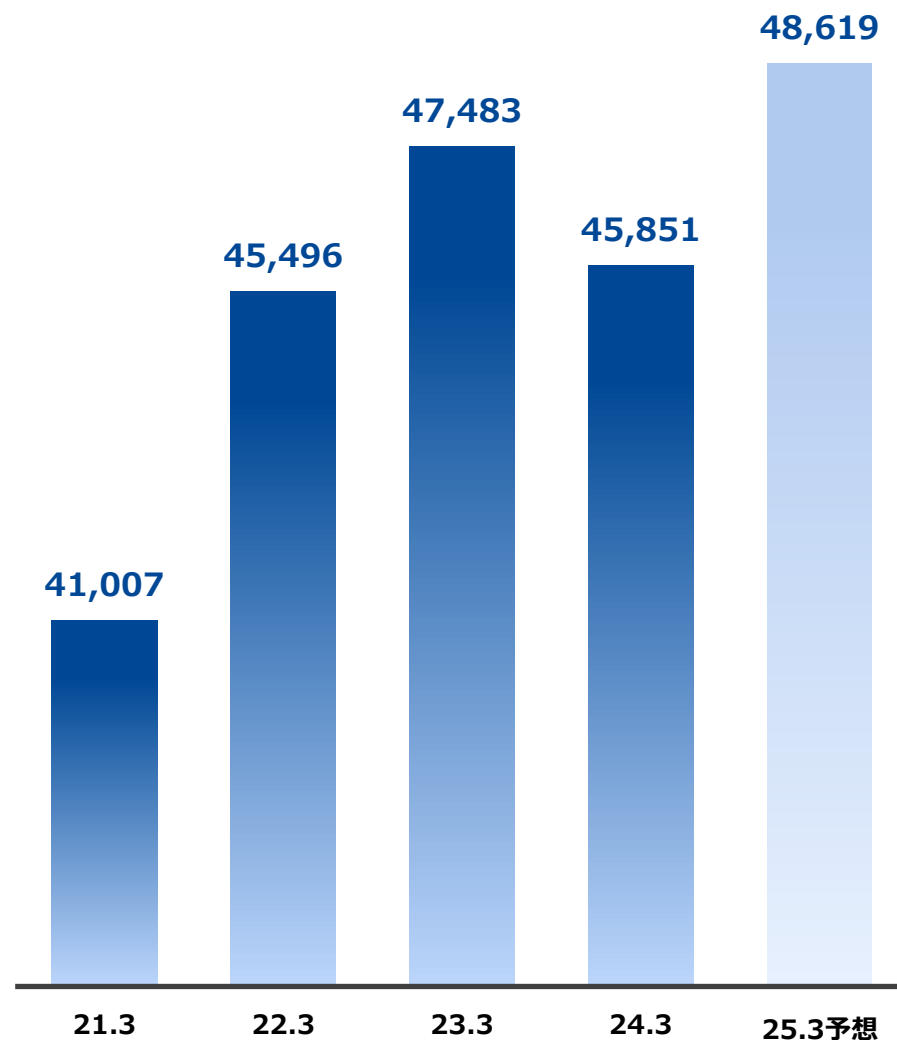


- 全国展開、施設拡大、シェアUP、品目拡大による売上増加を見込む
- 38期にあった主要な取引先施設の一部の喪失を39期は見込まない
- RAQUOSの拡販を見込む

不整脈事業 41,764百万円 6.3%増

虚血事業 2,606百万円 6.1%増

その他事業 4,247百万円 3.9%増



業績予想（営業利益、当期純利益）

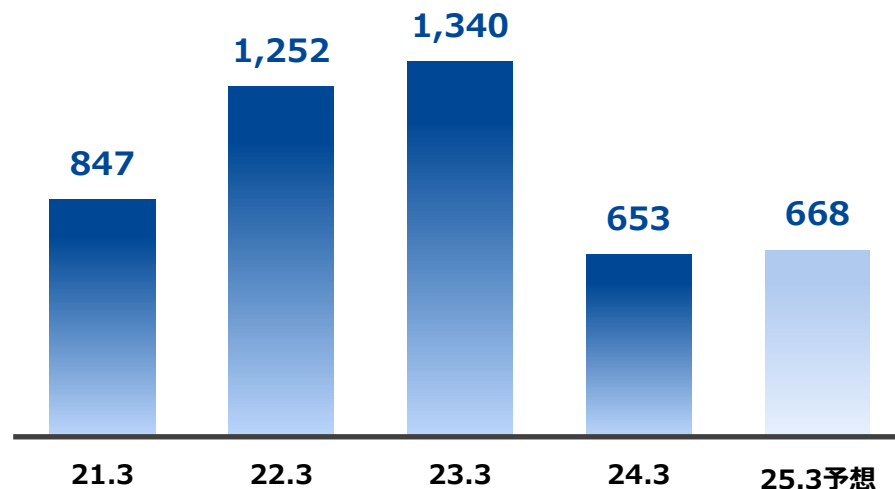


（単位：百万円）

営業利益 6.6億円

前期比 2.3%増

- 売上高の増加を見込む（営業利益増加要因）
- 粗利率の上昇を見込む（営業利益増加要因）
- 販管費（人件費）の増加を見込む

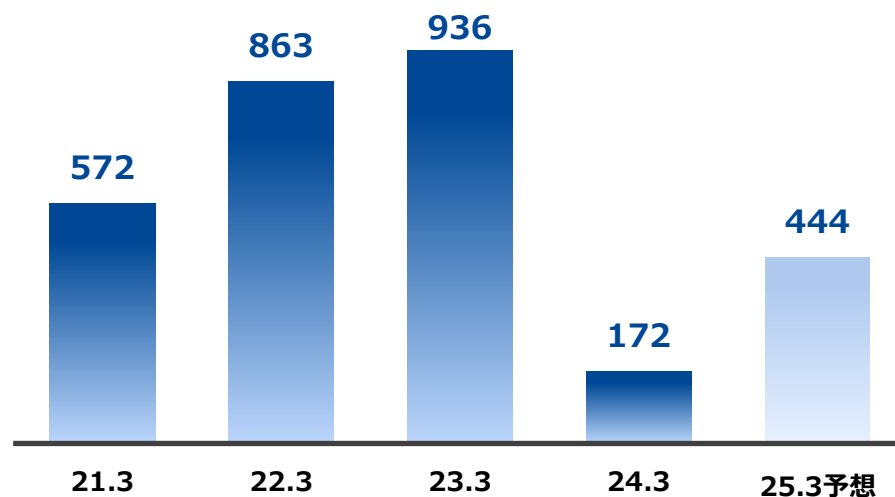


当期純利益 4.4億円

前期比 157.1%増

予想EPS 42円56銭

前期実績 16円58銭



期末配当金 **50.0円**

2024年3月期 **50.0円**

配当性向 **117.5%**

2024年3月期 **301.6%**

配当方針を継続

(単位：円)

60.00

■ 配当金

● 配当性向

500.0%

48.00

50.00

50.00

400.0%

36.00

301.6%

300.0%

24.00

24.00

25.00

200.0%

12.00

21.3

22.3

23.3

24.3

25.3予想

0.0%

43.2%

29.9%

33.3%

117.5%

100.0%

5 中期展望

パーパス：生命と健康を守る

ミッション：患者・医師・医療関係者にとって有益な製品・サービスを提供し、最適な医療の普及に貢献する。

ビジョン：医療の現場や社会から求められるリーダーを目指す。

人種・性別・世代を問わず、多様な個性で変化を捉え、新たな事業を開拓する。

テーマ
～その目的～

中長期戦略

中期計画

1

利益率、生産性向上

～医療への持続的な貢献～



独自製品拡充
DXによる物流・事務省力化



自社企画品投入
DXと事務フロー変革

2

地域的依存度低減

～コア事業での競争力の保持～



バランス経営のもとでの全国シェア拡大
労働・資本生産性に基づく意思決定



営業利益（配賦後）、労働生産性評価
資本コスト（ROIC）指標

3

強靱な事業ポートフォリオ

～リスクの分散とニーズの追求～



代理店・商社・開発のバランス
ニーズ志向の新商品導入促進



輸入総代理店機能強化
新製品投入の検討ルーティン加速

4

新たな成長基盤の強化（市場）

～世界中の生命と健康を守る～



海外市場開拓
隣接事業開拓



海外仕様開発
RAQUOSアジア向け輸出開始
R-SUD、リサイクル事業

5

成長基盤の強化（組織）

～技術・環境の変化を機会にする～



女性活躍推進
多様な人材育成



女性比率
人材育成予算
M&Aの活用

・数値計画の更新

(単位：百万円)

	第39期 (2025年3月期)	第40期 (2026年3月期)	第41期 (2027年3月期)
売上高	48,619	52,599	55,622
営業利益	668	1,060	1,244
売上高営業利益率	1.4%	2.0%	2.2%

(注)

本中期経営計画は、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。



*Development
Venture*

X (無限の可能性)

IRについてのお問い合わせ先 財務経理部

TEL : 03-5985-6832 E-Mail : ir_form@dvx.jp URL : <https://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。